

オリブ11月号

臨床心理学修士・HKJCF 牧師 漸波光正

「しかし、主は、『私の恵みは、あなたに十分である。というのは、私の力は、弱さの内に完全に現れるからである』と言われたのです。ですから、私はキリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」Ⅱコリント 12章9節
I 弱さとは？

心理的な面でも福祉的な面でも、弱さに関する定義がありますが、今回は弱さを「自分の思い通りに人や物ごとを実現したり、コントロール出来ないこと」と定義することにしましょう。実は、「自分の思い通りに物ごとが実現すること」こそ、現代人の最も求めていることなのです。したがって幸せの定義も「自分の思い通りに人や物ごとを実現したり、コントロール出来ること」と言うことになると思います。

自己の願望の実現は、「ささやかな幸せ」レベルなら良いのですが、私たちの願いがエスカレートすると完全主義でコントロール依存となり、家庭が暗い雰囲気になったり、人と競い合い、人を傷つける結果に終わってしまうのです。

Ⅱ弱さをおおうキリストの力

私たちの欲望がエスカレートし、その実現のために努力し、家族に号令をかけ、友人たちを利用しようとするなら、そこに残るのは幸せどころか肥大した欲望を抱えた孤独なエゴイストとなった自分なのです。

どこかでストッパーが掛からなければなりません。そのままでは人生はやがて崖っぷちに差し掛からなくてはならないのです。

自分自身（肉体面、心理面等）の弱さを自覚するのは40代後半からが多いのですが、家族の何らかの課題で一足先に、弱さを体験することも多いものです。問題は自分の全能感に基づく幸せではなく、自分や家族が弱さを実感しても、それをおおうキリストの愛の力を受けて生きることです。

弱さの反対は強さですが、キリストの強さは、私たちをエゴイズムから解放し、愛の人に生まれ変わらせる愛の強さ、愛の力なのです。そして、愛の強さ、愛の力の働きは私たちが弱さを実感し、神の一人子イエス様に祈ること、イエス様の言である聖書の言に耳を傾けることから始まるのです。

Ⅲ弱さを誇る

私たちの弱さの体験は私たちの人生が崖っぷちに至らないためのストッパーなのです。弱さからの救いは弱さの意味を知ることから始まります。弱さが強さに代わることより、弱さの意味を知ったうえで、キリストの愛・キリストの強さを体験することが、三浦綾子さんや星野富弘さんにも通じる生き方なのです。神様は皆様の経験する弱さを決してほっぽらかしにはしないお方です。私たちは弱さを通し、キリストの愛に出会い、愛を誇る人となるのです。オリブ会の目的は私たちがキリストの愛のゆえに弱さを誇れる（受け入れられる）人となることです。今月も神様の祝福がありますように。